発展探究課題研究発表会・SS 部研究発表会　開催

◇期　日　1 月 29 日(金)13:30～

◇場　所　本校第一体育館

◇参加者　2 年探究科学科生徒、1 学年、SS 部員、富山大学の先生方、本校教職員

1 月 29 日に発展探究課題研究発表会 SS 部研究発表会が行われた。これは 2 年探究科学科生徒及び SS 部員が長く鋭意努力してきた研究活動の大きな節目となる重要な発表会であった。当日の大雪警報に加え、今年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響で、発表会の開催すらも不透明な状況だったが、無観客ながら適切な感染対策の下で例年と変わりなく開催できた。

発表は三校合同発表会同様にポスターセッション形式で行った。発表者は皆懸命に研究内容を伝え、聞き手側はそれを受けて質問を投げかけるなど意欲的な態度が見られた。内容も多様で、自分たちが興味のあることを自分たちのやりたいよう一途に取り組んでいるもの、ユニークな課題設定や発想で多くの人を集めているもの、見る人も感嘆するような思わぬところにつながりを見出したものや、現代社会の問題に切り込んだものなど、秀逸だった。課題研究指導に携わられた富山大学の先生方もご参加くださって緊張感のある発表になったが、皆自信をもって発表できたのは、これまでの努力の裏打ちがあるからだ。1 年生にとっては来年の発展探究の参考になる発表会であり、皆興味をもって参加していた。1 年生には、ぜひとも今年度の研究のレベルを超えられるよう頑張ってほしいと思う。

心残りがあるとすれば、三校合同発表会とこの発表会を通しても、すべての発表を回れないことである。興味深い研究が多く、もっと見たいものがあったが、時間の都合上難しい。また、見る発表を選ぶときも、よりインパクトのあるものや、身近なものほど興味を持たれやすく、専門的なものほど注目されにくいという面もある。

探究活動全般に関して振り返ると、実際のところ、高校生にできることは限られている。専門の研究者からみれば、高校生は圧倒的に知識不足で、まさに「思而不学則殆」である。そもそも探究活動自体が学習であって、大事なのは研究結果よりも何にどう取り組んだかである。研究がうまくいった人もいかなかった人も、何を得たのかを考えてみるべきである。実際に研究テーマが自分の進路にどう関わるかという直接的なことだけでなく、うまくいったこと、いかなかったこととその理由など、振り返ると役に立つことがきっと多くあるだろう。自信がついた人もいれば、無力さに嘆息する人もいるかもしれないが、いずれにせよ、経験とは非常に役に立つものだと思う。

ある先生曰く、大学に入ると教授から「考えるな」と言われたと。その意味は、学生はまだ知識や経験が足りず、考えても仕方がない、それよりもまず知識や経験を積み、研究はそのあとに、ということである。語弊はあると思うが(その語弊も承知だと思う)、学ばなければならないことは実際多いだろう。そうなれば自分で考える機会の貴重さが見えてくる。(教授と逆のことを言うようだが)考え自体の社会的意義ではなく、考える練習という点では、普段から考えることが大切なのだと思う。　ともかくも、発展探究や課題研究発表会を通して様々な刺激を受けた。この経験を自信につなげ、今後の活動にも生かしていきたい。